

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 28 日現在

機関番号：34506

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H05776

研究課題名(和文)細胞内膜系動態が支える植物の環境応答能力

研究課題名(英文)Endomembrane-mediated organ straightening and defense in plants

研究代表者

西村 いくこ (Hara-Nishimura, Ikuko)

甲南大学・学長直属・特別客員教授

研究者番号：00241232

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 153,800,000円

研究成果の概要(和文)：細胞内に広く分布する小胞体(ER)は、環境に応じて「特殊化した機能をもつオルガネラ」を形成する能力をもつことがわかってきた。ERボディと命名したオルガネラは、食植性昆虫などに対して忌避物質を放出する化学防御装置であることを証明した。アブラナ科植物に特異的なERボディを非アブラナ科植物に形成誘導することにも成功した。また、ステロール量の恒常性に働くSEボディや小胞体膜の質的コントロール系の存在を示唆するLNPボディの発見もあった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

移動することができない植物は、様々な環境変化に対応するために、細胞内に特殊化したオルガネラを誘導していた。その一つであるERボディはアブラナ科植物の新規の化学防御系として働く。非アブラナ科植物のERボディ形成誘導にも成功したことから、この成果は耐虫性作物の生産につながる。また、SEボディはステロール恒常性制御を担う。この成果は、腸内でのコレステロール吸収を抑制する植物ステロールエステルの増産につながる。

研究成果の概要(英文)：The endoplasmic reticulum (ER) has an ability to generate distinct compartments in response to overproduction of materials. In this study, we found endomembrane dynamics-based physiological functions of the ER: i) ER bodies for chemical defense against herbivore, ii) SE bodies acting as a fail-safe system for sterol homeostasis, iii) LNP bodies related to generation of the ER network, and iv) organ straightening system supported by myosin XI-actin cytoskeleton.

研究分野：植物細胞生物学(植物分子および生理科学関連)

キーワード：細胞内膜系 小胞体 化学防御 植物・動物相互作用 環境応答 小胞体由来オルガネラ ERボディ SEボディ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

植物科学研究は、環境ストレス応答や感染防御の分野で国際的に目覚ましい発展を遂げてきた。しかし、これらの課題に細胞内膜系の動態から迫ろうとする研究は少なかった。私たちの、(1) 傷害により誘導されるオルガネラ (ER ボディ) の発見 (*Plant Cell Physiol.*, 2001)、(2) 液胞膜崩壊によるウイルス感染防御系の発見 (*Science*, 2004)、(3) 液胞膜と細胞膜の融合によるバクテリア感染防御系の発見 (*Gene & Dev.*, 2010)などは、この分野の研究の流れを変えてきた。また、(4) 細胞骨格 Actin-Myosin XI 系による小胞体運動の発見 (*Proc. Natl. Acad. Sci.*, 2010) と (5) 細胞核の運動装置の発見 (*Curr. Biol.*, 2013) も本研究課題のベースとなった (図1)。本研究では、外環境や内環境のストレスを感知した細胞内が、小胞体から特殊化した機能をもつオルガネラを形成誘導する機構に注目している。この研究は、登熟種子細胞の小胞体が貯蔵タンパク質の大量合成ストレスにより特殊なオルガネラ (PAC 小胞と命名) を形成するという発見が端緒となっている (図1)。

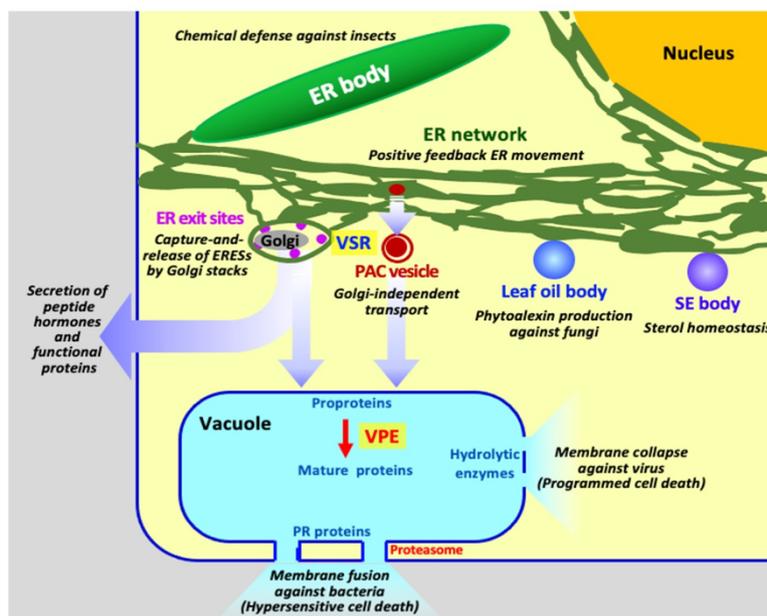


図1. 植物の細胞内で多様な生理機能をもつ内膜系.

細胞内で最大の膜面積をもつ小胞体(深緑色)は、特殊化した役割をもつオルガネラを派生させる。細胞内で最大の体積をもつ液胞(水色)は、液胞膜崩壊や膜融合によって、ウイルスや細菌などの病原体に対抗する(*Plant Cell*, 2022)。

2. 研究の目的

本研究は、細胞内膜系、特に真核細胞内で最大の表面積をもつ小胞体に注目してその動態から、植物の虫害応答能力と環境応答能力を解明することを目的とした。小胞体の複雑なネットワーク構造形成の分子機構を解明した上で、環境や生育段階に対応して様々なオルガネラを派生させる小胞体の柔軟性の理解を目指す。具体的な課題は下記のとおりである。

課題1：小胞体から派生するオルガネラの一つである ER ボディは、幼植物体の表皮と根の表皮に分布し、傷害を受けた葉に誘導形成される。環境ストレスを最も受けやすい表皮への配備されていることから、ER ボディ系は新しい虫害防御機構であるという仮説を提唱していた。本研究では、この仮説の証明を目指す。

課題2：これまでに、小胞体運動の Actin-Myosin XI 細胞骨格依存的モデル (三者相互作用 positive-feedback モデル) を提唱し、細胞内最大の表面積をもつ小胞体の運動が、原形質流動の原動力となっていることを報告した (*Proc. Natl. Acad. Sci.*, 2010)。一方、小胞体流動を駆動する Actin-Myosin XI 系が、植物の器官は光や重力等の環境刺激に応答した屈曲を抑制するしくみ (Straightening と命名) をもつことが分かった (*Nature Plants*, 2015)。細胞内運動と器官運動の関連性の理解を目指す。

3. 研究の方法

本研究では、小胞体の動態という視点からの課題を挙げており、これらの課題は私たちが独自に発見した生理現象を対象としているため、既存の手法が存在しない。従って、手法の確立から着手した。一般的な、シロイヌナズナの正・逆分子遺伝学および分子生物学的手法とイメージング技術および生化学的手法を用いた。また、プロテオームやメタボロームなどのオミックス解析も駆使した。本研究課題で注目した小胞体から派生するオルガネラと構造体は、ER ボディ、SE ボディ、LNP ボディ、核膜構造、アクチン-ミオシン細胞骨格である (図2)。具体的な手法は下記のとおりである。

ER ボディ系を植物の防御系と位置づけるためには、食害の実験系の確立が必須である。昆虫 (オカダンゴムシ) を用いた食害実験系を確立し、ER ボディ形成不全変異体や ER ボディ局在の β -glucosidases 欠損変異体は容易に食害を受けるのに対して、野生型は全く食害を受けないことが分かった (後述)。食害の統計学的定量解析に向けてこの実験系をさらに改良した。また、植物・動物相互作用を定量的に解析するために、ハエの吻伸展反射応答実験系を確立した。これにより、ハエの食欲に及ぼす植物由来の揮発性忌避物質の効果を定量することが可能となった。

シロイヌナズナ (アブラナ科) などの油糧種子は脂質をオイルボディに集積する。オイルボディ膜タンパク質と緑色蛍光タンパク質 (GFP) の融合タンパク質を発現させた形質転換シロイヌナズナを作成し、栄養器官 (葉) にオイルボディを以上形成誘導する変異体を単離した。取得した変異体のリポドーム解析とプロテオーム解析を行い、葉に誘導されたオイルボディは、ステロールを大量に集積することから SE ボディと命名した (後述)。当初、原因遺伝子は機能未知であったが、放射性同位元素を用いた解析で脂質合成系の律速酵素活性を測定した。

小胞体の複雑なネットワーク形成機構とその柔軟性を解明する目的で、特に、小胞体膜タンパク質の ROOT HAIR DEFECTIVE3 (RHD3) と LUNAPARK (LNP) 注目して分子遺伝学的解析と細胞生物学的解析を行った。

植物の小胞体は細胞膜直下に広く分布している。この性質を利用して、variable-angle epifluorescence microscopy (VAEM) 解析が可能であることを見出した。これまでの共焦点レーザー顕微鏡より格段に時間分解能で小胞体サブドメイン動態が解析できた。

クリノスタットを用いたシロイヌナズナの花茎の Straightening の定量方法を確立し、Straightening 不全変異体の取得、Straightening 司令塔細胞の Actin-Myosin XI 系のライブセルイメージング解析、機械刺激センサー候補遺伝子の解析を行った。

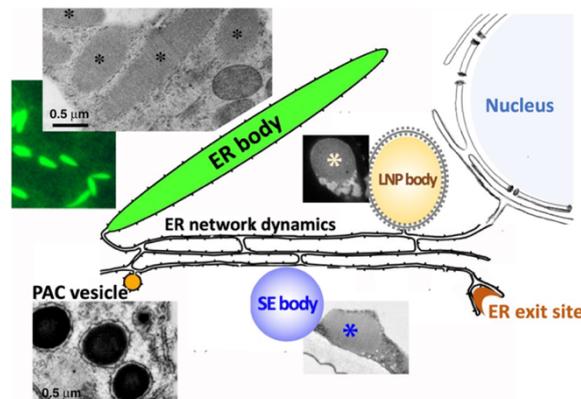


図2. 本研究で注目した小胞体由来のオルガネラと構造体。

ER (Endoplasmic Reticulum) body. SE (Sterol Ester) body.
LNP (LUNAPARK) body; ER (Endoplasmic Reticulum) exit site.

4. 研究成果

本研究では、細胞内最大の表面積をもつ小胞体の環境応答能力の理解を目標として、小胞体から派生するオルガネラ ER ボディの形成機構と生理機能を解明した。当初、予見しなかった成果として、同じく小胞体から派生する構造体 (SE ボディや LNP ボディ) の発見もあった (図1、2)。これらの研究成果は、植物細胞生物学の7つの重要な発見の一つとして評価され、植物科学のトップジャーナル *Plant Cell* 誌に招待され、A rich and bountiful harvest: key discoveries in plant cell biology のタイトルで7名の研究者と共同執筆した (*Plant Cell*, 2022)。

① 本研究課題による研究成果

課題1：ER ボディに集積する β -glucosidases (BGLUs) の基質を同定し、ER ボディ系が単一の細胞の破壊で忌避物質を放出することで昆虫などによる食害から身を守っていることを証明した。単細胞型の化学防御の成立には、小胞体で合成される BGLUs の基質蓄積部位 (液胞) への漏出を防ぐしくみが必須となる。これを支える因子として NAI2 を同定した。ER ボディは、アブラナ科に特徴的なオルガネラであるが、驚くべきことに、2つの遺伝子 (NAI2 と BGLU23) の導入により、アブラナ科以外の植物にも ER ボディを形成誘導することに成功した (図3、*Communication Biol.*, 2020)。

ER ボディ系の昆虫に対する影響を評価するために、ハエの吻伸反響で食欲を評価する実験系を確立し、ER ボディ系の忌避物質は昆虫の食欲を低下させることを見出した (図4)。即ち、ER ボディ系は、動物・植物双方のダメージを最小限に食い止める Win-win 型防御機構を実現していることがわかった (論文準備中)。これらの成果は、匂いを介した植物・動物の分子細胞レベルの研究として、国際会議で高い評価を受けた。

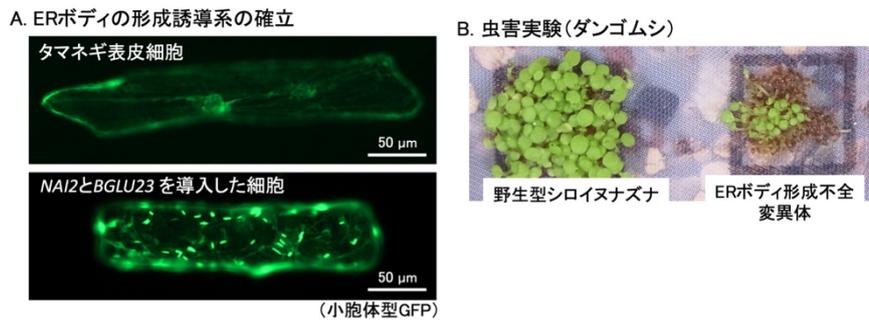


図3. ERボディは植物の化学防御系として機能する。

- A. ERボディは、アブラナ科植物特異的なオルガネラであるが、2つの遺伝子 (NAI2とBGLU23) の導入によって、非アブラナ科植物に形成誘導できる。
 B. 野生型シロイヌナズナは、食植性動物 (ダンゴムシ) による食害を受けないが (左)、ERボディ形成不全変異体は食害を受ける (右)。

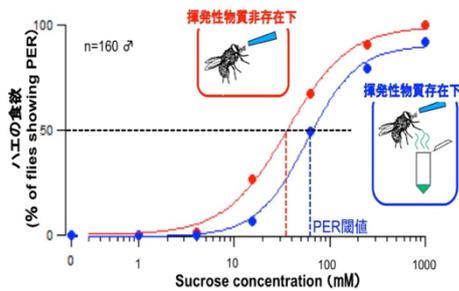


図4. ERボディ系で生成される揮発性物質はハエの食欲を低下させる。

シロイヌナズナ幼植物体由来の揮発性物質の存在下 (青色) と非存在下 (赤色) でハエにシロ糖溶液を与え吻伸反響 (食欲) を評価した。

課題2：器官運動 Straightening の既知の制御因子は Actin-Myosin XI 細胞骨格のみであった (*Nature Plants*, 2015)。新たな Straightening 制御因子として Myosin XI 結合タンパク質を同定した (図5、未発表)。

Straightening は器官屈曲の感知が引き金になることから、『器官屈曲の際に生じる細胞内のひずみが、機械刺激となって Straightening を引き起こす』という仮説を立て、これまでに、細胞膜と液胞膜に局在する機械刺激受容チャネルの変異体の Straightening 能力評価実験を行い、Straightening 能力低下を示す変異体も得ている (未発表)。

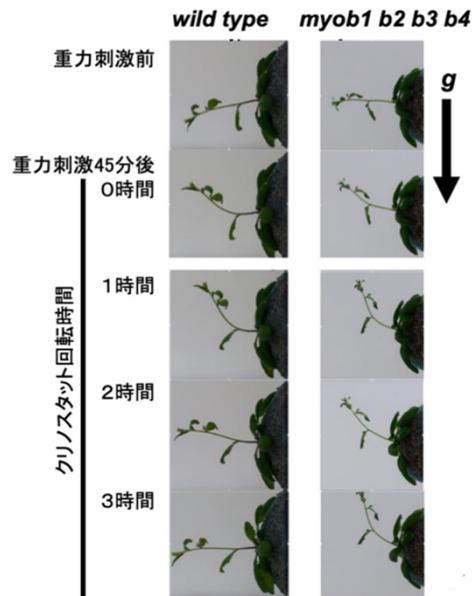
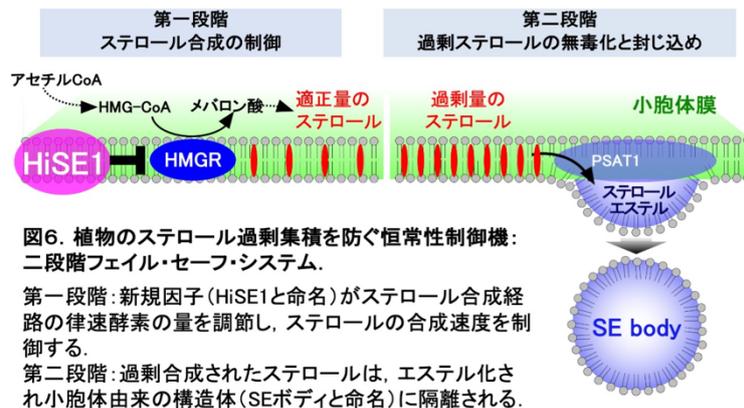


図5. ミオシンXI受容体は花茎の Straightening を制御する。シロイヌナズナに45分間の重力刺激を与えた後に、クリノスタート回転を与えて重力方向を攪乱すると、野生型は屈曲 (重力屈性) を停止して水平に伸びる Straightening を示す (左)。一方、ミオシンXI受容体の四重欠損変異体は屈曲し続け、Straightening 不全を示す。

② 当初に予見していなかった新たな展開等によって得られた研究成果

(1) 本研究を推進する過程で、新たな小胞体由来オルガネラを発見した。シロイヌナズナの葉にステロールエステルを集積するオルガネラであったことからSE (Sterol Ester) ボディと命名した。SEボディを大量にもつ変異体とその原因遺伝子産物 (HiSE1と命名) の解析から、ステロール過剰集積を防ぐ2段階の技を提唱した (図6)。植物は、ステロール合成抑制系と過剰ステロール隔離系によってステロールの恒常性を維持している (*Nature plants*, 2019)。この発見は、動物のステロール量の制御系分野の研究にもブレークスルーを与えるものと考えられる。また、作物へ*hise1*変異を導入することにより、ステロールエステルのみならず、同様の経路で合成される天然ゴムやグリチルリチンなどの様々な有用二次代謝産物の増産へも期待が広がる。



(2) 小胞体の動態解明を目的として、小胞体の膜タンパク質RHD3の機能解析を行い、C末端ドメインのリン酸化が小胞体の膜融合を促進することを見出した (*Plant Physiol.*, 2016)。

次いで、シロイヌナズナの小胞体膜タンパク質Lunapark (LNP)の欠損が、ネットワーク密度と層構造の減少を示す一方、直径約10 μmの異常な構造体 (LNPボディと命名) を形成することを見出した (図7、*Plant Cell Physiol.*, 2018)。多重欠損変異体は成長不全を起こす。LNPボディの微細構造解析と小胞体膜分布の詳細な解析を通して、小胞体膜の細胞内分配システムの解明を進めている。

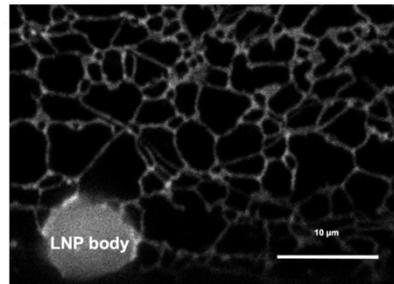


図7. 植物の小胞体膜の質的制御系。
 小胞体型Venusを発現する*Inpa-1 Inpb-1*変異体の胚軸細胞。小胞体のネットワークは粗く、蛍光を示す球状構造体 (LNPボディと命名) が形成される。

(3) 全反射照明蛍光顕微鏡は、界面近傍の構造体の動態を高感度に解析できるが、細胞壁に囲まれている植物細胞の観察には向かない。その一方で、小胞体ネットワークは、細胞膜と中心液胞の間の狭い空間に広く分布する。この性質に注目して、小胞体サブドメインであるERES (ER exit site) の動態をVAEM (variable-angle epifluorescence microscopy)によって高時間分解能で解析することに成功した。

植物のERESとゴルジ体の動的な関係は不明であった。ERESは、ER cavityに存在するゴルジ体によって捕獲され積荷の受け渡し後に、放出リサイクルされるというモデル「dynamic capture-and-release model of ERESs by Golgi stacks」を提唱した (図8、*iScience*, 2020)。

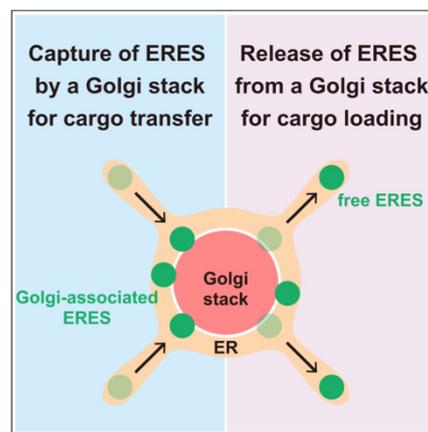


図8. 植物のERES (小胞体積荷搬出サイト) のゴルジ体によるCapture-and-Releaseモデル。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計84件（うち査読付論文 78件 / うち国際共著 24件 / うちオープンアクセス 42件）

1. 著者名 Cheung Alice Y, Cosgrove Daniel J, Hara-Nishimura Ikuko, Jørgens Gerd, Lloyd Clive, Robinson David G, Staehelin L Andrew, Weijers Dolf	4. 巻 34
2. 論文標題 A rich and bountiful harvest: Key discoveries in plant cell biology	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Plant Cell	6. 最初と最後の頁 53 ~ 71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/plcell/koab234	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Hu Shuai, Li Baiying, Wu Fan, Zhu Dongmei, Zouhar Jan, Gao Caiji, Shimada Tomoo, Rojo Enrique, Hara-Nishimura Ikuko, Jiang Liwen, Shen Jinbo	4. 巻 119
2. 論文標題 Plant ESCRT protein ALIX coordinates with retromer complex in regulating receptor-mediated sorting of soluble vacuolar proteins	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Proceedings of the National Academy of Sciences	6. 最初と最後の頁 e2200492119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1073/pnas.2200492119	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Fukuda Kyohei, Uefune Masayoshi, Fukaki Hidehiro, Yamauchi Yasuo, Hara-Nishimura Ikuko, Ozawa Rika, Matsui Kenji, Sugimoto Koichi, Okada Kazunori, Imai Ryojo, Takahashi Kenshi, Enami Shinichi, Wurst Ren?, Takabayashi Junji	4. 巻 18
2. 論文標題 Aerial (+)-borneol modulates root morphology, auxin signalling and meristematic activity in Arabidopsis roots	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Biology Letters	6. 最初と最後の頁 20210629
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rsbl.2021.0629	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Ikeda Fumika, Tamura Kentaro	4. 巻 2502
2. 論文標題 Validation of Nuclear Pore Complex Protein-Protein Interactions by Transient Expression in Plants	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Methods Mol Biol.	6. 最初と最後の頁 235 ~ 243
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-1-0716-2337-4_15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Moriya Kenta C., Shirakawa Makoto, Loue-Manifel Jeanne, Matsuda Yoriko, Tamura Kentaro, Oka Yoshito, Matsushita Tomonao, Hara-Nishimura Ikuko, Ingram Gwyneth, Nishihama Ryuichi, Goodrich Justin, Kohchi Takayuki, Shimada Tomoo	4. 巻 4.29
2. 論文標題 A transcription factor module regulating stomatal formation is co-opted for the development of setae in the astatomous liverwort <i>Marchantia polymorpha</i>	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 bioRxiv	6. 最初と最後の頁 489008
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/2022.04.29.489008	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nishigaki Naho, Yoshimi Yoshihisa, Kuki Hiroaki, Kunieda Tadashi, Hara Nishimura Ikuko, Tsumuraya Yoichi, Takahashi Daisuke, Dupree Paul, Kotake Toshihisa	4. 巻 173
2. 論文標題 Galactoglucomannan structure of Arabidopsis seed coat mucilage in <i><scp>GDP</scp></i> mannose synthesis impaired mutants	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Physiologia Plantarum	6. 最初と最後の頁 1244 ~ 1252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ppl.13519	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Goto Chieko, Hara-Nishimura Ikuko, Tamura Kentaro	4. 巻 12
2. 論文標題 Regulation and Physiological Significance of the Nuclear Shape in Plants	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Plant Science	6. 最初と最後の頁 673905
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpls.2021.673905	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tamura Kentaro, Ueda Haruko, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 12
2. 論文標題 In vitro assembly of nuclear envelope in tobacco cultured cells	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nucleus	6. 最初と最後の頁 82 ~ 89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/19491034.2021.1930681	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shimada Takashi L., Ueda Takashi, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 16
2. 論文標題 Excess sterol accumulation affects seed morphology and physiology in <i>Arabidopsis thaliana</i>	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Plant Signaling Behavior	6. 最初と最後の頁 1872217 ~ 1872217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15592324.2021.1872217	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yagi Hiroki, Tamura Kentaro, Matsushita Tomonao, Shimada Tomoo	4. 巻 16
2. 論文標題 Spatiotemporal relationship between auxin dynamics and hydathode development in <i>Arabidopsis</i> leaf teeth	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Plant Signaling Behavior	6. 最初と最後の頁 1989216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15592324.2021.1989216	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yagi Hiroki, Nagano Atsushi J, Kim Jaewook, Tamura Kentaro, Mochizuki Nobuyoshi, Nagatani Akira, Matsushita Tomonao, Shimada Tomoo	4. 巻 72
2. 論文標題 Fluorescent protein-based imaging and tissue-specific RNA-seq analysis of <i>Arabidopsis</i> hydathodes	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Experimental Botany	6. 最初と最後の頁 1260 ~ 1270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jxb/eraa519	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sarkar Shayan, Stefanik Natalia, Kunieda Tadashi, Hara-Nishimura Ikuko, Yamada Kenji	4. 巻 16
2. 論文標題 The <i>Arabidopsis</i> transcription factor NAI1 activates the NAI2 promoter by binding to the G-box motifs	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Plant Signaling Behavior	6. 最初と最後の頁 1846928 ~ 1846928
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15592324.2020.1846928	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Mermet Sarah, Voisin Maxime, Mordier Joris, Dubos Tristan, Tutois Sylvie, Tuffery Pierre, Baroux C?lia, Tamura Kentaro, Probst Aline V., Vanrobays Emmanuel, Tatout Christophe	4. 巻 3.2
2. 論文標題 Evolutionary conserved protein motifs drive attachment of the plant nucleoskeleton at nuclear pores	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 bioRxiv	6. 最初と最後の頁 435662
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/2021.03.20.435662	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sakamoto Yuki, Sato Mayuko, Sato Yoshikatsu, Harada Akihito, Suzuki Takamasa, Goto Chieko, Tamura Kentaro, Toyooka Kiminori, Kimura Hiroshi, Ohkawa Yasuyuki, Hara-Nishimura Ikuko, Takagi Shingo, Matsunaga Sachihiro	4. 巻 11
2. 論文標題 Subnuclear gene positioning through lamina association affects copper tolerance	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nature Communications	6. 最初と最後の頁 5914
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41467-020-19621-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sakoda Kazuma, Yamori Wataru, Shimada Tomoo, Sugano Shigeo S., Hara-Nishimura Ikuko, Tanaka Yu	4. 巻 11
2. 論文標題 Higher Stomatal Density Improves Photosynthetic Induction and Biomass Production in Arabidopsis Under Fluctuating Light	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Plant Science	6. 最初と最後の頁 589603
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpls.2020.589603	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Goto Chieko, Tamura Kentaro, Nishimaki Satsuki, Maruyama Daisuke, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 71
2. 論文標題 The nuclear envelope protein KAKU4 determines the migration order of the vegetative nucleus and sperm cells in pollen tubes	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Experimental Botany	6. 最初と最後の頁 6273 ~ 6281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jxb/eraa367	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Araki Kiwako S., Nagano Atsushi J., Nakano Ryohei Thomas, Kitazume Tatsuya, Yamaguchi Katsushi, Hara-Nishimura Ikuko, Shigenobu Shuji, Kudoh Hiroshi	4. 巻 10
2. 論文標題 Characterization of rhizome transcriptome and identification of a rhizomatous ER body in the clonal plant <i>Cardamine leucantha</i>	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 13291
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-69941-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagano Minoru, Ueda Haruko, Fukao Yoichiro, Kawai-Yamada Maki, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 15
2. 論文標題 Generation of Arabidopsis lines with a red fluorescent marker for endoplasmic reticulum using a tail-anchored protein cytochrome <i>c</i> ₅ -B	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Plant Signaling Behavior	6. 最初と最後の頁 1790196 ~ 1790196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15592324.2020.1790196	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takagi Junpei, Kimori Yoshitaka, Shimada Tomoo, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 23
2. 論文標題 Dynamic Capture and Release of Endoplasmic Reticulum Exit Sites by Golgi Stacks in Arabidopsis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 iScience	6. 最初と最後の頁 101265 ~ 101265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.isci.2020.101265	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ichino Takuji, Maeda Kazuki, Hara-Nishimura Ikuko, Shimada Tomoo	4. 巻 71
2. 論文標題 Arabidopsis ECHIDNA protein is involved in seed coloration, protein trafficking to vacuoles, and vacuolar biogenesis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Experimental Botany	6. 最初と最後の頁 3999 ~ 4009
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jxb/eraa147	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shimada Takashi L., Yamaguchi Katsushi, Shigenobu Shuji, Takahashi Hiro, Murase Masataka, Fukuyoshi Shuichi, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 133
2. 論文標題 Excess sterols disrupt plant cellular activity by inducing stress-responsive gene expression	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Plant Research	6. 最初と最後の頁 383 ~ 392
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10265-020-01181-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Kenji, Goto-Yamada Shino, Nakazaki Akiko, Kunieda Tadashi, Kuwata Keiko, Nagano Atsushi J., Nishimura Mikio, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 3
2. 論文標題 Endoplasmic reticulum-derived bodies enable a single-cell chemical defense in Brassicaceae plants	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Communications Biology	6. 最初と最後の頁 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s42003-019-0739-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Stefanik Natalia, Bizan Jakub, Wilkens Alwine, Tarnawska-Glatt Katarzyna, Goto-Yamada Shino, Strza?ka Kazimierz, Nishimura Mikio, Hara-Nishimura Ikuko, Yamada Kenji	4. 巻 61
2. 論文標題 NAI2 and TSA1 Drive Differentiation of Constitutive and Inducible ER Body Formation in Brassicaceae	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Plant and Cell Physiology	6. 最初と最後の頁 722 ~ 734
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/pcp/pcz236	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kunieda Tadashi, Hara-Nishimura Ikuko, Demura Taku, Haughn George W	4. 巻 61
2. 論文標題 Arabidopsis FLYING SAUCER 2 Functions Redundantly with FLY1 to Establish Normal Seed Coat Mucilage	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Plant and Cell Physiology	6. 最初と最後の頁 308 ~ 317
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/pcp/pcz195	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ishikawa Kazuya, Tamura Kentaro, Fukao Yoichiro, Shimada Tomoo	4. 巻 226
2. 論文標題 Structural and functional relationships between plasmodesmata and plant endoplasmic reticulum?plasma membrane contact sites consisting of three synaptotagmins	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 New Phytologist	6. 最初と最後の頁 798 ~ 808
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/nph.16391	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tamura Kentaro	4. 巻 133
2. 論文標題 Nuclear pore complex-mediated gene expression in Arabidopsis thaliana	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Plant Research	6. 最初と最後の頁 449 ~ 455
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10265-020-01177-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Izuishi Yuki, Isaka Natsumi, Li Hao, Nakanishi Kohei, Kageyama Joji, Ishikawa Kazuya, Shimada Tomoo, Masuta Chikara, Yoshikawa Nobuyuki, Kusano Hiroaki, Yazaki Kazufumi	4. 巻 10
2. 論文標題 Apple latent spherical virus (ALSV)-induced gene silencing in a medicinal plant, Lithospermum erythrorhizon	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 13555
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-70469-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Iwabuchi Kosei, Shimada Takashi L., Yamada Tetsuya, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 15
2. 論文標題 A space-saving visual screening method, Glycine max FAST, for generating transgenic soybean	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Plant Signaling and Behavior	6. 最初と最後の頁 1722911 ~ 1722911
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15592324.2020.1722911	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Kenji, Basak Arpan Kumar, Goto Yamada Shino, Tarnawska Glatt Katarzyna, Hara Nishimura Ikuko	4. 巻 226
2. 論文標題 Vacuolar processing enzymes in the plant life cycle	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 New Phytologist	6. 最初と最後の頁 21 ~ 31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/nph.16306	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakata Miyuki T., Nakao Mao, Denda Asuka, Onoda Yusuke, Ueda Haruko, Demura Taku	4. 巻 37
2. 論文標題 Estimating the flexural rigidity of Arabidopsis inflorescence stems: Free-vibration test vs. three-point bending test	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Plant Biotechnology	6. 最初と最後の頁 471 ~ 474
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5511/plantbiotechnology.20.1214a	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakaso Yosuke, Arimoto Sayaka, Kawaguchi Ken'ichi, Muto Takara, Ueda Haruko	4. 巻 37
2. 論文標題 Mechanical measurement of gravitropic bending force in pea sprouts	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Plant Biotechnology	6. 最初と最後の頁 475 ~ 480
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5511/plantbiotechnology.20.1201b	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwabuchi Kosei, Shimada Takashi L., Yamada Tetsuya, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 10.1101
2. 論文標題 A space-saving visual screening method, <i>Glycine max</i> FAST, for generating transgenic soybean	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 bioRxiv	6. 最初と最後の頁 797282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/797282	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sakoda Kazuma, Yamori Wataru, Shimada Tomoo, Sugano Shigeo S., Hara-Nishimura Ikuko, Tanaka Yu	4. 巻 2.2
2. 論文標題 Stomatal density affects gas diffusion and CO2 assimilation dynamics in Arabidopsis under fluctuating light	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 bioRxiv	6. 最初と最後の頁 958603
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/2020.02.20.958603	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shimada Takashi L., Shimada Tomoo, Okazaki Yozo, Higashi Yasuhiro, Saito Kazuki, Kuwata Keiko, Oyama Kaori, Kato Misako, Ueda Haruko, Nakano Akihiko, Ueda Takashi, Takano Yoshitaka, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 5
2. 論文標題 HIGH STEROL ESTER 1 is a key factor in plant sterol homeostasis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Nature Plants	6. 最初と最後の頁 1154 ~ 1166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41477-019-0537-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakazaki Akiko, Yamada Kenji, Kunieda Tadashi, Tamura Kentaro, Hara-Nishimura Ikuko, Shimada Tomoo	4. 巻 14
2. 論文標題 Biogenesis of leaf endoplasmic reticulum body is regulated by both jasmonate-dependent and independent pathways	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Plant Signaling and Behavior	6. 最初と最後の頁 1622982 ~ 1622982
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15592324.2019.1622982	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakai Yumi, Horiguchi Gorou, Iwabuchi Kosei, Harada Akiko, Nakai Masato, Hara-Nishimura Ikuko, Yano Takato	4. 巻 60
2. 論文標題 tRNA Wobble Modification Affects Leaf Cell Development in Arabidopsis thaliana	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Plant and Cell Physiology	6. 最初と最後の頁 2026 ~ 2039
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/pcp/pcz064	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Goto Chieko, Hashizume Shoko, Fukao Yoichiro, Hara-Nishimura Ikuko, Tamura Kentaro	4. 巻 10
2. 論文標題 Comprehensive nuclear proteome of Arabidopsis obtained by sequential extraction	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Nucleus	6. 最初と最後の頁 81 ~ 92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/19491034.2019.1603093	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Maeda Kazuki, Kunieda Tadashi, Tamura Kentaro, Hatano Kyoko, Hara-Nishimura Ikuko, Shimada Tomoo	4. 巻 60
2. 論文標題 Identification of Periplasmic Root-Cap Mucilage in Developing Columella Cells of Arabidopsis thaliana	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Plant and Cell Physiology	6. 最初と最後の頁 1296 ~ 1303
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/pcp/pcz047	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshinari Akira, Hosokawa Takuya, Amano Taro, Beier Marcel Pascal, Kunieda Tadashi, Shimada Tomoo, Hara-Nishimura Ikuko, Naito Satoshi, Takano Junpei	4. 巻 179
2. 論文標題 Polar Localization of the Borate Exporter BOR1 Requires AP2-Dependent Endocytosis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Plant Physiology	6. 最初と最後の頁 1569 ~ 1580
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1104/pp.18.01017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakazaki Akiko, Yamada Kenji, Kunieda Tadashi, Sugiyama Ryosuke, Hirai Masami, Yokota, Tamura Kentaro, Hara-Nishimura Ikuko, Shimada Tomoo	4. 巻 179
2. 論文標題 Leaf Endoplasmic Reticulum Bodies Identified in Arabidopsis Rosette Leaves Are Involved in Defense against Herbivory	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Plant Physiology	6. 最初と最後の頁 1515 ~ 1524
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1104/pp.18.00984	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ueda Haruko, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 1924
2. 論文標題 How to Investigate the Role of the Actin-Myosin Cytoskeleton in Organ Straightening	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Methods Mol Biol.	6. 最初と最後の頁 215 ~ 221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-1-4939-9015-3_18	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Goto-Yamada Shino, Oikawa Kazusato, Bizan Jakub, Shigenobu Shuji, Yamaguchi Katsushi, Mano Shoji, Hayashi Makoto, Ueda Haruko, Hara-Nishimura Ikuko, Nishimura Mikio, Yamada Kenji	4. 巻 10
2. 論文標題 Sucrose Starvation Induces Microautophagy in Plant Root Cells	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Plant Science	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpls.2019.01604	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Iwabuchi Kosei, Ohnishi Haruna, Tamura Kentaro, Fukao Yoichiro, Furuya Tomoyuki, Hattori Koro, Tsukaya Hirokazu, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 179
2. 論文標題 ANGUSTIFOLIA Regulates Actin Filament Alignment for Nuclear Positioning in Leaves	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Plant Physiology	6. 最初と最後の頁 233 ~ 247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1104/pp.18.01150	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Poret Marine, Chandrasekar Balakumaran, van der Hoorn Renier A. L., Dechaumet Sylvain, Bouchereau Alain, Kim Tae-Hwan, Lee Bok-Rye, Macquart Flavien, Hara-Nishimura Ikuko, Avice Jean-Christophe	4. 巻 10
2. 論文標題 A Genotypic Comparison Reveals That the Improvement in Nitrogen Remobilization Efficiency in Oilseed Rape Leaves Is Related to Specific Patterns of Senescence-Associated Protease Activities and Phytohormones	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Plant Science	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpls.2019.00046	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Goto Chieko, Tamura Kentaro, Nishimaki Satsuki, Yanagisawa Naoki, Matsuura-Tokita Kumi, Higashiyama Tetsuya, Maruyama Daisuke, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 1101
2. 論文標題 KAKU4-mediated deformation of the vegetative nucleus controls its precedent migration over sperm cells in pollen tubes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 bioRxiv	6. 最初と最後の頁 774489
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/774489	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shimada Tomoo, Kunieda Tadashi, Sumi Sakura, Koumoto Yasuko, Tamura Kentaro, Hatano Kyoko, Ueda Haruko, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 59
2. 論文標題 The AP-1 Complex is Required for Proper Mucilage Formation in Arabidopsis Seeds	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Plant and Cell Physiology	6. 最初と最後の頁 2331-2338
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1146/annurev-arplant-042817-040508	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimada Tomoo, Takagi Junpei, Ichino Takuji, Shirakawa Makoto, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 69
2. 論文標題 Plant Vacuoles	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Annual Review of Plant Biology	6. 最初と最後の頁 123 ~ 145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41477-018-0217-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takenaka Yuto, Kato Kohei, Ogawa-Ohnishi Mari, Tsuruhama Kana, Kajiura Hiroyuki, Yagyuu Kenta, Takeda Atsushi, Takeda Yoichi, Kunieda Tadashi, Hara-Nishimura Ikuko, Kuroha Takeshi, Nishitani Kazuhiko, Matsubayashi Yoshikatsu, Ishimizu Takeshi	4. 巻 4
2. 論文標題 Pectin RG-I rhamnosyltransferases represent a novel plant-specific glycosyltransferase family	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Nature Plants	6. 最初と最後の頁 669 ~ 676
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/pcp/pcy113	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Martinoia Enrico, Mimura Tetsuro, Hara-Nishimura Ikuko, Shiratake Katsuhiko	4. 巻 59
2. 論文標題 The Multifaceted Roles of Plant Vacuoles	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Plant and Cell Physiology	6. 最初と最後の頁 1285-1287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/pcp/pcy082	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shirakawa Makoto, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 59
2. 論文標題 Specialized Vacuoles of Myrosin Cells: Chemical Defense Strategy in Brassicales Plants	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Plant and Cell Physiology	6. 最初と最後の頁 1309-1316
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-1-4939-7668-3_15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hatsugai Noriyuki, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 1743
2. 論文標題 Measurement of the Caspase-1-Like Activity of Vacuolar Processing Enzyme in Plants	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Methods Mol Biol.	6. 最初と最後の頁 163 ~ 171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-1-4939-7856-4_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimada Tomoo, Fuji Kentaro, Ichino Takuji, Teh Ooi-Kock, Koumoto Yasuko, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 1789
2. 論文標題 GREEN FLUORESCENT SEED, to Evaluate Vacuolar Trafficking in Arabidopsis Seeds	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Methods Mol Biol.	6. 最初と最後の頁 1 ~ 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1242/jcs.216051	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hamada Takahiro, Yako Mako, Minegishi Marina, Sato Mayuko, Kamei Yasuhiro, Yanagawa Yuki, Toyooka Kiminori, Watanabe Yuichiro, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 131
2. 論文標題 Stress granule formation is induced by a threshold temperature rather than a temperature difference in <i>Arabidopsis</i>	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Cell Science	6. 最初と最後の頁 jcs216051, 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1104/pp.18.00498	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishikawa Kazuya, Tamura Kentaro, Ueda Haruko, Ito Yoko, Nakano Akihiko, Hara-Nishimura Ikuko, Shimada Tomoo	4. 巻 178
2. 論文標題 Synaptotagmin-Associated Endoplasmic Reticulum-Plasma Membrane Contact Sites Are Localized to Immobile ER Tubules	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Plant Physiology	6. 最初と最後の頁 641 ~ 653
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.plaphy.2018.08.034	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Shintaro, Morita Rihito, Kuwata Keiko, Kunieda Tadashi, Ueda Haruko, Hara-Nishimura Ikuko, Minami Yoshiko	4. 巻 132
2. 論文標題 Tissue-specific and intracellular localization of indican synthase from <i>Polygonum tinctorium</i>	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Plant Physiology and Biochemistry	6. 最初と最後の頁 138 ~ 144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0205117	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugano Shigeo S., Nishihama Ryuichi, Shirakawa Makoto, Takagi Junpei, Matsuda Yoriko, Ishida Sakiko, Shimada Tomoo, Hara-Nishimura Ikuko, Osakabe Keishi, Kohchi Takayuki	4. 巻 13
2. 論文標題 Efficient CRISPR/Cas9-based genome editing and its application to conditional genetic analysis in <i>Marchantia polymorpha</i>	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0205117, 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15592324.2018.1547577	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishikawa Kazuya, Tamura Kentaro, Shimada Tomoo	4. 巻 13
2. 論文標題 Subcellular localisation of an endoplasmic reticulum-plasma membrane tethering factor, SYNAPTOTAGMIN 1, is affected by fluorescent protein fusion	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Plant Signaling Behavior	6. 最初と最後の頁 e1547577, 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-1-4939-8691-0_15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Poulet Axel, Zhou Xiao, Tamura Kentaro, Meier Iris, Tatout Christophe, Graumann Katja, Evans David E.	4. 巻 1840
2. 論文標題 Computational Methods for Studying the Plant Nucleus	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Methods Mol Biol.	6. 最初と最後の頁 205 ~ 219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/pcp/pcy137	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ueda Haruko, Ohta Natsumi, Kimori Yoshitaka, Uchida Teruka, Shimada Tomoo, Tamura Kentaro, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 59
2. 論文標題 Endoplasmic Reticulum (ER) Membrane Proteins (LUNAPARKs) are Required for Proper Configuration of the Cortical ER Network in Plant Cells	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Plant and Cell Physiology	6. 最初と最後の頁 1931 ~ 1941
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1104/pp.17.01522	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimada Takashi L., Hayashi Makoto, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 176
2. 論文標題 Membrane Dynamics and Multiple Functions of Oil Bodies in Seeds and Leaves	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Plant Physiology	6. 最初と最後の頁 199 ~ 207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1104/pp.17.01610	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hatsugai Noriyuki, Nakatsuji Aya, Unten Osamu, Ogasawara Kimi, Kondo Maki, Nishimura Mikio, Shimada Tomoo, Katagiri Fumiaki, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 176
2. 論文標題 Involvement of Adapter Protein Complex 4 in Hypersensitive Cell Death Induced by Avirulent Bacteria	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Plant Physiology	6. 最初と最後の頁 1824 ~ 1834
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-1-4939-6533-5_13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugano Shigeo S., Nishihama Ryuichi, Shirakawa Makoto, Takagi Junpei, Matsuda Yoriko, Ishida Sakiko, Shimada Tomoo, Hara-Nishimura Ikuko, Osakabe Keishi, Kohchi Takayuki	4. 巻 1101
2. 論文標題 Efficient CRISPR/Cas9-based genome editing and its application to conditional genetic analysis in <i>Marchantia polymorpha</i>	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 bioRxiv	6. 最初と最後の頁 277350
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/277350	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shimada Tomoo, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 1511
2. 論文標題 Isolation of Protein Storage Vacuoles and Their Membranes	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Methods in Molecular Biology	6. 最初と最後の頁 163 ~ 168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1105/tpc.16.00825	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe Etsuko, Mano Shoji, Hara-Nishimura Ikuko, Nishimura Mikio, Yamada Kenji	4. 巻 12
2. 論文標題 HSP90 stabilizes auxin receptor TIR1 and ensures plasticity of auxin responses	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Plant Signaling Behavior	6. 最初と最後の頁 e1311439
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1242/dev.145458	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wang Sheliang, Yoshinari Akira, Shimada Tomoo, Hara-Nishimura Ikuko, Mitani-Ueno Namiki, Feng Ma Jian, Naito Satoshi, Takano Junpei	4. 巻 29
2. 論文標題 Polar Localization of the NIP5;1 Boric Acid Channel Is Maintained by Endocytosis and Facilitates Boron Transport in Arabidopsis Roots	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Plant Cell	6. 最初と最後の頁 824 ~ 842
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/19491034.2017.1279774	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sakai Yumiko, Sugano Shigeo S., Kawase Takashi, Shirakawa Makoto, Imai Yu, Kawamoto Yusuke, Sugiyama Hiroshi, Nakagawa Tsuyoshi, Hara-Nishimura Ikuko, Shimada Tomoo	4. 巻 144
2. 論文標題 Inhibition of cell polarity establishment in stomatal asymmetric cell division using the chemical compound bubblin	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Development	6. 最初と最後の頁 499 ~ 506
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1242/dev.145458	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tamura Kentaro, Fukao Yoichiro, Hatsugai Noriyuki, Katagiri Fumiaki, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 8
2. 論文標題 Nup82 functions redundantly with Nup136 in a salicylic acid-dependent defense response of Arabidopsis thaliana	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Nucleus	6. 最初と最後の頁 301 ~ 311
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.tplants.2016.07.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakano Ryohei T., Pislewska-Bednarek Mariola, Yamada Kenji, Edger Patrick P., Miyahara Mado, Kondo Maki, Bottcher Christoph, Mori Masashi, Nishimura Mikio, Schulze-Lefert Paul, Hara-Nishimura Ikuko, Bednarek Pawel	4. 巻 89
2. 論文標題 PYK10 myrosinase reveals a functional coordination between endoplasmic reticulum bodies and glucosinolates in Arabidopsis thaliana	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Plant Journal	6. 最初と最後の頁 204 ~ 220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21769/BioProtoc.1834	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Shirakawa Makoto, Ueda Haruko, Shimada Tomoo, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 21
2. 論文標題 FAMA: A Molecular Link between Stomata and Myrosin Cells	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Trends in Plant Science	6. 最初と最後の頁 861 ~ 871
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/pcp/pcw170	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hosokawa Yoichiroh, Iino Takanori, Oikawa Kazusato, Mano Shoji, Yamada Kenji, Nishimura Mikio	4. 巻 6
2. 論文標題 Quantification of the Adhesion Strength between Peroxisomes and Chloroplasts by Femtosecond Laser Technology	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 BIO-PROTOCOL	6. 最初と最後の頁 e1834
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21769/BioProtoc.1790	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe Etsuko, Mano Shoji, Nomoto Mika, Tada Yasuomi, Hara-Nishimura Ikuko, Nishimura Mikio, Yamada Kenji	4. 巻 57
2. 論文標題 HSP90 Stabilizes Auxin-Responsive Phenotypes by Masking a Mutation in the Auxin Receptor TIR1	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Plant and Cell Physiology	6. 最初と最後の頁 2245 ~ 2254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-1-4939-3530-7_2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Oikawa Kazusato, Mano Shoji, Yamada Kenji, Hosokawa Yoichiro, Nishimura Mikio	4. 巻 6
2. 論文標題 Measuring the Interactions between Peroxisomes and Chloroplasts by in situ Laser Analysis	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 BIO-PROTOCOL	6. 最初と最後の頁 e1790
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-1-4939-3530-7_2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Zhou Xiao, Tamura Kentaro, Graumann Katja, Meier Iris	4. 巻 1411
2. 論文標題 Exploring the Protein Composition of the Plant Nuclear Envelope	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Methods Mol Biol	6. 最初と最後の頁 45 ~ 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1094/MPMI-10-15-0228-R.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hatsugai N, Hillmer R, Yamaoka S, Hara-Nishimura I, Katagiri F.	4. 巻 29
2. 論文標題 The μ Subunit of Arabidopsis Adaptor Protein-2 Is Involved in Effector-Triggered Immunity Mediated by Membrane-Localized Resistance Proteins.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Mol. Plant Microbe Interact.	6. 最初と最後の頁 345-351
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1094/MPMI-10-15-0228-R.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Fuji K, Shirakawa M, Shimono Y, Kunieda T, Fukao Y, Koumoto Y, Takahashi H, Hara-Nishimura I, Shimada T.	4. 巻 170
2. 論文標題 The Adaptor Complex AP-4 Regulates Vacuolar Protein Sorting at the trans-Golgi Network by Interacting with VACUOLAR SORTING RECEPTOR1.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Plant Physiol.	6. 最初と最後の頁 211-219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1104/pp.15.00869.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ueda H, Yokota E, Kuwata K, Kutsuna N, Mano S, Shimada T, Tamura K, Stefano G, Fukao Y, Brandizzi F, Shimmen T, Nishimura M, Hara-Nishimura I.	4. 巻 170
2. 論文標題 Phosphorylation of the C Terminus of RHD3 Has a Critical Role in Homotypic ER Membrane Fusion in Arabidopsis.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Plant Physiol.	6. 最初と最後の頁 867-880
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1104/pp.15.01172	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tamura K., Kawabayashi T., Shikanai T., and Hara-Nishimura I.	4. 巻 11
2. 論文標題 Decreased expression of a gene caused by a T-DNA insertion in an adjacent gene in Arabidopsis.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 e0147911
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0147911	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iwabuchi K., Hidema J., Tamura K., Takagi S., and Hara-Nishimura I.	4. 巻 170
2. 論文標題 Plant nuclei move to escape ultraviolet-induced DNA damage and cell death	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Plant Physiol.	6. 最初と最後の頁 678-685
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1104/pp.15.01400	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shirakawa Makoto, Ueda Haruko, Shimada Tomoo, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 11
2. 論文標題 Myrosin cells are differentiated directly from ground meristem cells and are developmentally independent of the vasculature in Arabidopsis leaves	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Plant Signaling Behavior	6. 最初と最後の頁 e1150403
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15592324.2015.1010947	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okamoto Keishi, Ueda Haruko, Shimada Tomoo, Tamura Kentaro, Koumoto Yasuko, Tasaka Masao, Morita Miyo Terao, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 11
2. 論文標題 An ABC transporter B family protein, ABCB19, is required for cytoplasmic streaming and gravitropism of the inflorescence stems	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Plant Signaling Behavior	6. 最初と最後の頁 e1010947
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21769/BioProtoc.1826	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawase Takashi, Sugano Shigeo, Shimada Tomoo, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 6
2. 論文標題 Differential and Simultaneous Visualization of Cells and Airspaces in Plant Leaves	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 BIO-PROTOCOL	6. 最初と最後の頁 e1826
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pbi.2015.08.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ueda Haruko, Tamura Kentaro, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 28
2. 論文標題 Functions of plant-specific myosin XI: from intracellular motility to plant postures	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Current Opinion in Plant Biology	6. 最初と最後の頁 30 ~ 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/pcp/pcv081	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Goto-Yamada Shino, Mano Shoji, Yamada Kenji, Oikawa Kazusato, Hosokawa Yoichiroh, Hara-Nishimura Ikuko, Nishimura Mikio	4. 巻 56
2. 論文標題 Dynamics of the Light-Dependent Transition of Plant Peroxisomes: Fig. 1	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Plant and Cell Physiology	6. 最初と最後の頁 1264 ~ 1271
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pbi.2015.05.019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shimada Takashi L, Hara-Nishimura Ikuko	4. 巻 25
2. 論文標題 Leaf oil bodies are subcellular factories producing antifungal oxylipins	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Current Opinion in Plant Biology	6. 最初と最後の頁 145 ~ 150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pbi.2015.05.019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計187件(うち招待講演 47件/うち国際学会 43件)

1. 発表者名 Kenta Moriya, Makoto Shirakawa, Yoriko Matsuda, Kentaro Tamura, Ryuichi Nishihama, Ikuko Hara-Nishimura, Takayuki Kohchi, and Tomoo Shimada
2. 発表標題 The Sole Member of bHLH Transcription Factor Subfamily 1a Regulates Sporophytic Tissue Development in <i>Marchantia polymorpha</i>
3. 学会等名 International Symposium: Principles of pluripotent stem cells underlying plant vitality (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Yoshinari, Takuya Hosokawa, Taro Amano, Marcel Pascal Beier, Tadashi Kunieda, Tomoo Shimada, Ikuko Hara-Nishimura, Satoshi Naito, and Junpei Takano
2. 発表標題 AP2-dependent and independent endocytic pathways: differential regulation of polar localization and vacuolar sorting of the borate transporter BOR1
3. 学会等名 International Workshop on Plant Membrane Biology (IWPMB) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高木純平, 木森義隆, 嶋田知生, 西村いくこ
2. 発表標題 COPII小胞形成ドメインER exit siteの動態解析
3. 学会等名 JANPER2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水穂そまれ, 前田徹, 上尾達也, 高木純平, 國枝正, 山田健志, 尾崎まみこ, 西村いくこ
2. 発表標題 昆虫の摂食行動からみたER bodyの役割と 化学防御の進化
3. 学会等名 JANPER2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上田 晴子, 横田 悦雄, 西村 いくこ
2. 発表標題 小胞体のゾーンからみる形態形成機構
3. 学会等名 日本植物学会第83回大会シンポジウム「植物におけるオルガネラゾーン研究」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 Adjustment of plant posture by actin-myosin XI cytoskeleton-mediated organ straightening
3. 学会等名 EUROBIOTECH 2019: 7TH Central European Congress of Life Sciences (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩淵功誠、島田貴士、山田哲也、西村いくこ
2. 発表標題 薬剤選抜を必要としない迅速な形質転換サイズの作製法 (GmFAST法)
3. 学会等名 第8回近畿植物学会講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上田晴子
2. 発表標題 植物細胞の小胞体のダイナミックな形態変化
3. 学会等名 奈良先端科学技術大学院大学・異分野融合ワークショップシンポジウム「植物の複雑な構造とその形状や動態を解析するための技術基盤」 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kenta Moriya, Makoto Shirakawa, Yoriko Matsuda, Kentaro Tamura, Ryuichi Nishihama, Ikuko Hara-Nishimura, Takayuki Kohchi, and Tomoo Shimada
2. 発表標題 Functional analyses of MpBHLH35 involved in the sporophytic tissue formation in <i>Marchantia polymorpha</i>
3. 学会等名 The 61st Annual Meeting of The Japanese Society of Plant Physiologists
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kazuki Maeda, Tadashi Kunieda, Kentaro Tamura, Ikuko Hara-Nishimura, and Tomoo Shimada
2. 発表標題 Functional analyses of PECTIN METHYLESTERASE 11 in the detachment of the outermost root cap layer in <i>Arabidopsis thaliana</i>
3. 学会等名 The 61st Annual Meeting of The Japanese Society of Plant Physiologists
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tadashi Kunieda, Mitsuki Jifuku, George W. Haughn, Ikuko Hara-Nishimura, Taku Demura
2. 発表標題 VND7 Regulates Expression of Ubiquitin E3 Ligases FLY1 and FLY2 in Xylem Vessel Cell Differentiation
3. 学会等名 The 61st Annual Meeting of The Japanese Society of Plant Physiologists (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takashi Shimada, Shuji Shigenobu, Katsushi Yamaguchi, Hiro Takahashi, Shuichi Fukuyoshi, Takashi Ueda, Hara-Nishimura Ikuko
2. 発表標題 Effects of excess sterols on cellular activity of plants
3. 学会等名 The 61st Annual Meeting of The Japanese Society of Plant Physiologists
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Junpei Takagi, Yoshitaka Kimori, Tomoo Shimada, and Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 Capture-and-release process of ER exit sites by Golgi stacks
3. 学会等名 The 61st Annual Meeting of The Japanese Society of Plant Physiologists
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Haruko Ueda, Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 Biological significance of the ER morphogenesis in plants
3. 学会等名 第61回日本植物生理学会年会シンポジウム 植物エンドメンブレンシステムが司る高次機能（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kosei Iwabuchi, Takashi L. Shimada, Tetsuya Yamada, and Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 A space-saving visual screening method, Glycine max FAST, for generating transgenic soybean
3. 学会等名 The 61st Annual Meeting of The Japanese Society of Plant Physiologists
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Seika Ishihara, Kohta Sakashita, Yusuke Ishida, Yoshitaka Kimori, Ikuko Hara-Nishimura, Kosei Iwabuchi
2. 発表標題 A novel light-dependent behavior of nucleoids in chloroplasts
3. 学会等名 The 61st Annual Meeting of The Japanese Society of Plant Physiologists
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 水穂そまれ, 前田徹, 上尾達也, 高木純平, 國枝正, 山田健志, 尾崎まみこ, 西村いくこ
2. 発表標題 アブラナ科が獲得した化学防御: 昆虫の摂食行動を抑制する ER ボディ系
3. 学会等名 第61回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 遠藤嘉一郎, 中崎淳子, 嶋田知生, 西村いくこ, 山田健志
2. 発表標題 シロイヌナズナにおける新規のグルコシノレート液胞輸送体の探索
3. 学会等名 第61回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 島田貴士, 嶋田知生, 岡咲洋三, 東泰弘, 斉藤和季, 桑田啓子, 小山香梨, 加藤美砂子, 高野義孝, 上田貴志, 中野明彦, 上田晴子, 西村いくこ
2. 発表標題 植物ステロールの合成制御因子HIGH STEROL ESTER1の解析
3. 学会等名 第62回脂質生化学会プレシンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 國枝正, 地福海月, Haughn George W., 西村いくこ, 出村拓
2. 発表標題 NAC転写因子VND7は道管細胞においてユビキチンE3リガーゼFLYの発現を制御する
3. 学会等名 日本植物学会第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ikuko Hara-Nishimura, Takashi L. Shimada, Tomoo Shimada, Yozo Okazaki, Keiko Kuwata, Misako Kato, Kaori Oyama, Haruko Ueda
2. 発表標題 HIGH STEROL ESTER 1-dependent fail-safe regulatory system for plant sterol homeostasis
3. 学会等名 Plant Biology 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Chieko Goto, Kentaro Tamura, and Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 The nuclear envelope protein KAKU4 affects the migration order of the vegetative nucleus and sperm cells in pollen tubes
3. 学会等名 Plant Biology 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Junpei Takagi, Yoshitaka Kimori, Tomoo Shimada, and Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 Dynamic capture-and-release of ER exit sites by Golgi stacks in plant cells
3. 学会等名 Plant Biology 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kenji Yamada, Natalia Stefanik, Jakub Bizan, Shino Goto-Yamada, Mikio Nishimura, Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 ER bodies are involved in chemical defense against herbivory in Brassicaceae plants
3. 学会等名 Plant Biology 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Haruko Ueda
2. 発表標題 植物細胞における小胞体の動態と形態形成
3. 学会等名 第93回日本生化学会大会シンポジウム，植物の小胞体の多彩な能力（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kentaro Tamura
2. 発表標題 小胞体の構造と機能に関するSUNドメインタンパク質
3. 学会等名 第93回日本生化学会大会シンポジウム，植物の小胞体の多彩な能力（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kentaro Tamura
2. 発表標題 Emerging roles for nuclear membrane in signalling pathway in higher plants.
3. 学会等名 第43回日本分子生物学会年会ワークショップ “核膜孔複合体に関するワークショップ：分子細胞生物，疾患，ナノテクノロジー”（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takashi Shimada, Shuji Shigenobu, Katsushi Yamaguchi, Hiro Takahashi, Shuichi Fukuyoshi, Takashi Ueda, Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 Excess sterols disturb physiological functions in seeds, leaves and roots in Arabidopsis thaliana
3. 学会等名 The 62nd Annual Meeting of The Japanese Society of Plant Physiologists
4. 発表年 2021年

1 . 発表者名 Kenta Moriya, Makoto Shirakawa, Yoriko Matsuda, Kentaro Tamura, Ryuichi Nishihama, Yoshito Oka, Tomonao Matsushita, Ikuko Hara-Nishimura, Takayuki Kohchi, and Tomoo Shimada
2 . 発表標題 MpBHLH35 regulates setal formation in the sporophyte of <i>Marchantia polymorpha</i>
3 . 学会等名 The 62nd Annual Meeting of The Japanese Society of Plant Physiologists
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Mebae Yamaguchi, Shuji Shigenobu, Katsushi Yamaguchi, Hiro Takahashi, Shuichi Fukuyoshi, Yasuhiro Higashi, Kazuki Saito, Keiko Kuwata, Ikuko Hara-Nishimura, Takashi Shimada
2 . 発表標題 A novel plastid protein LIPID RICH 1 is a negative regulator of lipid biosynthesis in <i>Arabidopsis thaliana</i>
3 . 学会等名 The 62nd Annual Meeting of The Japanese Society of Plant Physiologists
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Junpei Takagi, Somare Mizuho, Tatsuya Uebi, Tadashi Kunieda, Toru Maeda, Shunya Habe, Kenji Yamada, Mamiko Ozaki, and Ikuko Hara-Nishimura
2 . 発表標題 A chemical defense strategy of Brassicaceae plants reduces the feeding motivation of blowflies through their olfactory and gustatory systems
3 . 学会等名 The 62nd Annual Meeting of The Japanese Society of Plant Physiologists
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Tadashi Kunieda, Masa H. Sato, George W. Haughn, Ikuko Hara-Nishimura
2 . 発表標題 Functional Analysis of Plasma Membrane type SNARE Proteins in <i>Arabidopsis</i> Seed Coat Epidermal Cells
3 . 学会等名 The 62nd Annual Meeting of The Japanese Society of Plant Physiologists
4 . 発表年 2021年

1. 発表者名 Kaichiro Endo, Akiko Nakazaki, Tomoo Shimada, Ikuko Hara-Nishimura, Kenji Yamada
2. 発表標題 Functional analysis of a novel transporter potentially involved in glucosinolate uptake into vacuole in Arabidopsis
3. 学会等名 The 62nd Annual Meeting of The Japanese Society of Plant Physiologists
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Seika Ishihara, Kohta Sakashita, Yusuke Ishida, Yoshitaka Kimori, Yoshiki Nishimura, Yusuke Kobayashi, Ikuko Hara-Nishimura, Kosei Iwabuchi
2. 発表標題 A novel light-dependent behavior of nucleoids in chloroplasts of Marchantia polymorpha
3. 学会等名 The 62nd Annual Meeting of The Japanese Society of Plant Physiologists
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西村いくこ
2. 発表標題 細胞内膜系動態からみた 植物の生き方
3. 学会等名 第23回植物オルガネラワークショップ オルガネラ：生物学におけるパラダイムの変遷（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tadashi Kunieda, Mitsuki Jifuku, George W. Haughn, Ikuko Hara-Nishimura, Taku Demura
2. 発表標題 Functional and Transcriptional analyses of an Ubiquitin E3 Ligase FLY2 in Arabidopsis Seed Coat and Xylem Vessel Cells
3. 学会等名 The 7th International Conference on Plant Cell Wall Biology（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山口萌、重信秀治、山口勝司、高橋広夫、福吉修一、東泰弘、 斉藤和季、桑田啓子、西村いくこ、島田貴士
2. 発表標題 葉緑体タンパク質LIPID RICH 1による脂質代謝制
3. 学会等名 第33回植物脂質シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Haruko Ueda, Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 Endoplasmic reticulum dynamics and plant development
3. 学会等名 第44回日本分子生物学会年会シンポジウム"One small step, one giant leap: impacts of molecules and fluctuations on plant development" (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 15.高部晃宙, 藤澤祐希, 原口武士, 吉村考平, 富永基樹, 檜垣 匠, 上田晴子, 伊藤光二
2. 発表標題 細胞骨格におけるミオシン 11 のアクチン束化機構の解明
3. 学会等名 第44回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kentaro Tamura
2. 発表標題 The physiological roles of nuclear envelope proteins in plant reproductive organs.
3. 学会等名 Society for Experimental Biology Annual Main Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kentaro Tamura
2. 発表標題 Functional and spatial coordination between cell and nuclear shape in plants.
3. 学会等名 Society for Experimental Biology Annual Main Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田村 謙太郎
2. 発表標題 核膜孔が制御する植物の環境応答
3. 学会等名 第73回日本細胞生物学会大会シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田大一, 國田樹, 戸田真志, 上田晴子, 檜垣匠
2. 発表標題 植物の立体再構成システムを用いたミオシン XI 変異体草姿の定量解析
3. 学会等名 第30回日本バイオイメーキング学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 尾亦雄斗, 江面健太郎, 菅野茂夫, 庄司翼, 高野耕司, 岡咲洋三, 斉藤和季, 上田晴子, 西村いくこ, 島田貴士
2. 発表標題 トマトにおける HISE1 のステロール代謝 制御機構は生存に必須である
3. 学会等名 第63回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuki Isobe, Yuri Yonetani, Takashi L. Shimada, Ikuko Hara-Nishimura, Daisaku Ohta
2. 発表標題 Exploration of subcellular sites for the biosynthesis and storage of phytosterols
3. 学会等名 The 63rd Annual Meeting of The Japanese Society of Plant Physiologists
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三宅唯月, 八木宏樹, 豊倉浩一, 西村いくこ, 上田晴子
2. 発表標題 植物の姿勢制御に与える変異型 ACTIN8 の部位特異的発現の影響
3. 学会等名 第63回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩淵功誠, 八木宏樹, 守屋健太, 沖奈那夏, 横畑伶奈, 中田亜紗美, 広本沙耶, 小松愛乃, 酒井友希, 嶋田知生, 高木慎吾, 西浜竜一, 河内孝之, 渡辺洋平, 上田晴子, 西村いくこ
2. 発表標題 陸上植物における細胞核光定位運動の多様性と共通性
3. 学会等名 第63回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村上知暉, 安西慎太郎, 阪井裕美子, 田村謙太郎, 松田佳祐, 今井敏郎, 大越研人, 佐藤安弘, 永野惇, 岡義人, 松下智直, 嶋田知生
2. 発表標題 気孔形成をかく乱する小分子化合物 Bubblin の標的因子の解析
3. 学会等名 第63回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田翔平, 櫻井貴之, 嶋田知生, 田村謙太郎
2. 発表標題 膜を有さない核内構造体カハールホディはシロイヌナズナの高温への応答に関与している.
3. 学会等名 第63回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森愛理, Valerie Gaudin, 田村謙太郎
2. 発表標題 インボーチン (IMPA)は植物の免疫応答を抑制する
3. 学会等名 第63回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 守屋健太, Jeanne Loue-Manifel, 西浜竜一, 岡義人, 松下智直, Gwyneth Ingram, Justin Goodrich, 河内孝之, 嶋田知生
2. 発表標題 ゼニゴケ胞子体の蒴柄形成を制御するbHLH 型転写因子モジュールの解析
3. 学会等名 第63回日本植物生理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 八木宏樹, 永野惇, キム・ジュウ, 田村謙太郎, 望月伸悦, 長谷あきら, 松下智直, 嶋田知生
2. 発表標題 GFP蛍光を指標に単離したシロイヌナズナ排水組織マイクロサンプルのRNA-seq解析
3. 学会等名 第62回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 細川智佳, 田村謙太郎, 岡義人, 松下智直, 嶋田知生
2. 発表標題 液胞輸送変異体kam2における発芽後の成長阻害の解析
3. 学会等名 第62回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Haruaki Kobayashi, Shigeo S. Sugano, Kentaro Tamura, Yoshito Oka, Tomonao Matsushita, Tomoo Shimada
2. 発表標題 Functional analysis of putative peptide-coding genes in <i>Marchantia polymorpha</i>
3. 学会等名 第62回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Gaurav Singh, David Pereira, Tamsin A. Spelman, Stephanie Baudrey, Kentaro Tamura, Michael Ryckelynck, Henrik Jönsson, Atef Asnacios and Marie-Edith Chabout
2. 発表標題 Real time nucleus dynamics in the <i>Arabidopsis</i> single root hair.
3. 学会等名 20th HFSP Awardees Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shohei Ohta, Takayuki Sakurai, Tomoo Shimada, and Kentaro Tamura
2. 発表標題 Characterization of a Cajal body deficient mutant in <i>Arabidopsis thaliana</i> .
3. 学会等名 Society for Experimental Biology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sarah Mermet, Tristan Dubos, Sylvie Tutois, Kentaro Tamura, Christophe Tatout, Emmanuel Vanrobays
2. 発表標題 Interaction of the nuclear pore complex and the nucleoskeleton at the plant nuclear periphery.
3. 学会等名 Society for Experimental Biology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森 愛理, Valérie Gaudin, 田村 謙太郎
2. 発表標題 シロイヌナズナにおける核輸送因子インポーチン ファミリーの解析
3. 学会等名 日本植物学会第85回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田 翔平, 櫻井 貴之, 嶋田 知生, 田村 謙太郎
2. 発表標題 温度ストレス応答における核内小器官カハールボディの役割
3. 学会等名 日本植物学会第85回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大長 薫, 弘埜 陽子, 菊川 寛史, 田村 謙太郎, 原 清敬
2. 発表標題 出芽酵母のエネルギー代謝の改善
3. 学会等名 第73回日本生物工学大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Christophe Tatout, Sarah Mermet, Joris Mordier, Sylvie Tutois, Kentaro Tamura
2. 発表標題 Functional analysis of KAKU4 at the plant nuclear periphery
3. 学会等名 Society of Experimental Biology (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池田誌花, 大坪卓, 嶋田知生, 田村謙太郎
2. 発表標題 SUN-domainタンパク質は小胞体の形態形成に関する
3. 学会等名 日本植物学会第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉村 花, 田村 謙太郎
2. 発表標題 シロイヌナズナのSPIKE1は核の形態形成に関する
3. 学会等名 日本植物学会第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田 翔平, 櫻井 貴之, 深尾 陽一朗, 嶋田 知生, 田村 謙太郎
2. 発表標題 シロイヌナズナのカハールボディの機能解析
3. 学会等名 日本植物学会第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 細川智佳, 田村謙太郎, 嶋田知生
2. 発表標題 液胞輸送変異体kam2の芽生えにおけるショ糖要求性の表現型確認
3. 学会等名 第61回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 八木宏樹, 永野惇, 田村謙太郎, 望月伸悦, 長谷あきら, 嶋田知生
2. 発表標題 RNA-seqによる排水組織特異的な発現遺伝子の同定
3. 学会等名 第61回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木 達也, 延近 康平, 嶋田 知生, 西村 いくこ, 田村 謙太郎
2. 発表標題 植物個体サイズの拡大を担う核相の制御機構
3. 学会等名 富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田 燦, 田村 謙太郎
2. 発表標題 酵母アミノ酸輸送体欠失株を用いたチャCamellia Sinensisのデアニン輸送体の単離
3. 学会等名 富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木 達也, 延近 康平, 嶋田 知生, 西村 いくこ, 田村 謙太郎
2. 発表標題 シロイヌナズナECT1の優性変異は核内倍加の昂進と細胞の巨大化を引き起こす
3. 学会等名 日本植物学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田 燦, 田村 謙太郎
2. 発表標題 チャにおけるテアニン輸送体の探索
3. 学会等名 日本植物学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 瀬上紹嗣, 嶋田知生, 西村いくこ, 前島正義
2. 発表標題 GFPやTagRFPによるオイルボディ・液胞形態と植物生長への人為的影響
3. 学会等名 日本植物学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高木純平, 嶋田知生, 西村いくこ
2. 発表標題 小胞体からの選別輸送機構の解析
3. 学会等名 日本植物学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoo Shimada, Shintaro Anzai, Tomoki Murakami, Yumi Sakai, Kentaro Tamura, Itsuki Kato, Toshiro Imai, and Kento Okoshi
2. 発表標題 Toward the identification of a Bubblin's target to understand the asymmetric cell division of stomatal stem cell
3. 学会等名 International Symposium: Principles of pluripotent stem cells underlying plant vitality (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoo Shimada
2. 発表標題 Inventipn and diversity of stomata in land plants
3. 学会等名 第61回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Haruaki Kobayashi, Shigeo S. Sugano, Kentaro Tamura, Tomoo Shimada
2. 発表標題 Analysis of gene candidates for signaling peptides in archantia
3. 学会等名 第61回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tamura Kentaro
2. 発表標題 A novel candidate for plant lamina component in Arabidopsis
3. 学会等名 The 3rd International Symposium on Plant Nuclear Dynamics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ozaki, M., Uebi, T., Habe, S., Maeda, T., Yamada, K., Mizuho, S., Takagi, J., and Hara-Nishimura, I.
2. 発表標題 Chemical defense in plant and avoidance behavior in insect: A model study using Arabidopsis thaliana and Phormia regina.
3. 学会等名 European Symposium for Insect Taste and Olfaction (Villasimius, Italy) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ozaki, M., Uebi, T., Habe, S., Maeda, T., Yamada, K., Mizuho, S., Takagi, J., and Hara-Nishimura, I.
2. 発表標題 Chemical defense mechanism in plants and olfactory and gustatory reactions to it in insects: A model study using Arabidopsis thaliana and Phormia regina.
3. 学会等名 The 10th Interanational Congress of Comparative Physiology and Biochemistry: Mechanism and evolutionary processes. (Ottawa, Canada) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hara-Nishimura, I.
2. 発表標題 Adjustment of plant posture by actin-myosin XI cytoskeleton-mediated organ straightening.
3. 学会等名 EUROBIOTECH 2019. 7TH Central European Congress of Life Sciences (Krakow, Poland) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上尾達也, 水穂そまれ, 前田徹, 波部峻也, 高木純平, 國枝正, 山田健志, 西村いくこ, 尾崎まみこ
2. 発表標題 ER-body system guards plants against animals with few damage to both plants and animals by suppressing feeding motivation.
3. 学会等名 第41回日本比較生理生化学会 (東京都)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尾崎まみこ, 前田徹, 水穂そまれ, 國枝正, 高木純平, 山田健志, 西村いくこ, 上尾達也, 波部峻也
2. 発表標題 Chemical senses in the blowfly toward the chemical defense strategy in Arabidopsis.
3. 学会等名 日本動物学会第90回大阪大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Yoshinari, Takuya Hosokawa, Taro Amano, Marcel Pascal Beier, Tadashi Kunieda, Tomoo Shimada, Ikuko Hara-Nishimura, Satoshi Naito, and Junpei Takano
2. 発表標題 AP2-dependent and independent endocytic pathways: differential regulation of polar localization and vacuolar sorting of the borate transporter BOR1
3. 学会等名 International Workshop on Plant Membrane Biology (IWPMB) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yumi Nakai, Gorou Horiguchi, Kosei Iwabuchi, Akiko Harada, Masato Nakai, Ikuko Hara-Nishimura, Takato Yano
2. 発表標題 Deletion of tRNAwobbleU34 modification in plants affect leaf cell development.
3. 学会等名 日本RNA学会年会大会 (RNA 2019)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田貴士, 嶋田知生, 岡咲洋三, 東泰弘, 斉藤和季, 桑田啓子, 小山香梨, 加藤美砂子, 高野義孝, 上田貴志, 中野明彦, 上田晴子, 西村いくこ
2. 発表標題 HIGH STEROL ESTER1, a negative regulator of mevalonate pathway in plants
3. 学会等名 第二回天然ゴム研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shimada, T. L., Shimada, T., Okazaki, Y., Higashi, Y., Saito, K., Kuwata, K., Oyama, K., Kato, M., Ueda, H., Nakano, A., Ueda, T., Takano, Y., Hara-Nishimura, I.
2. 発表標題 HIGH STEROL ESTER 1 is a key regulator in plant sterol biosynthesis
3. 学会等名 8th Asian-Oceanian Symposium on Plant Lipids (ASPL2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yumi Nakai, Gorou Horiguchi, Kosei Iwabuchi, Akiko Harada, Masato Nakai, Ikuko Hara-Nishimura, Takato Yano
2. 発表標題 Deletion of tRNAwobbleU34 modification in plants affect leaf cell development.
3. 学会等名 日本分子生物学会2019 (福岡)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田貴士, 重信秀治, 山口勝司, 高橋広夫, 福吉修一, 上田貴志, 西村いくこ
2. 発表標題 植物ステロール過剰蓄積が及ぼす植物体への影響
3. 学会等名 第32回植物 脂質シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 迫田和馬, 嶋田知生, 菅野茂夫, 西村いくこ, 田中佑
2. 発表標題 気孔密度の改変が変動光に対する気孔開口と光合成の応答性に及ぼす影響
3. 学会等名 第60回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田和輝, 國枝正, 田村謙太郎, 幡野恭子, 西村いくこ, 嶋田知生
2. 発表標題 シロイヌナズナにおける根冠ムシレージの蓄積と放出機構の解析
3. 学会等名 第60回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩淵功誠, 大西春菜, 田村謙太郎, 深尾陽一朗, 古谷朋之, 服部考郎, 塚谷裕一, 西村いくこ
2. 発表標題 ANGUSTIFOLIAはアクチン繊維の配向調節を介してシロイヌナズナの葉の求心性核定位を制御する
3. 学会等名 第60回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤千恵子, 田村謙太郎, 西村いくこ, シャプテ マリー エディット
2. 発表標題 新規核タンパク質SANP1は根の寒天培地への貫入に関与する
3. 学会等名 第60回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 瀬上紹嗣, 木下悟, 島田貴士, 嶋田知生, 西村いくこ, 前島正義
2. 発表標題 GFPやTagRFPによるオイルボディ、液胞の形態と植物生長への人為的影響
3. 学会等名 第60回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水穂そまれ, 前田徹, 高木純平, 國枝正, 山田健志, 尾崎まみこ, 西村いくこ
2. 発表標題 ER bodyは昆虫の摂食行動を抑制するにのいの生産に關与する
3. 学会等名 第60回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高木純平, 嶋田知生, 西村いくこ
2. 発表標題 COPII小胞形成ドメインERESとゴルジ體の關係
3. 学会等名 第60回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 細川卓也, 吉成晃, 國枝正, 嶋田知生, 西村いくこ, 高野順平
2. 発表標題 アダプタータンパク質複合体AP-4はハウ酸トランスポーターBOR1のTGNから液胞への輸送において重要である
3. 学会等名 第60回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田貴士, 嶋田知生, 岡咲洋三, 東泰弘, 齊藤和季, 桑田啓子, 小山香梨, 加藤美砂子, 高野義孝, 上田貴志, 中野明彦, 上田晴子, 西村いくこ
2. 発表標題 小胞體タンパク質HIGH STEROL ESTER 1によるステロール恒常性維持機構
3. 学会等名 第60回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 國枝正, 桑田啓子, 山田健志, 出村拓, 西村いくこ
2. 発表標題 シロイヌナズナにおけるER body形成因子NAI2の機能解析
3. 学会等名 第60回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中崎淳子, 山田健志, 國枝正, 杉山龍介, 平井優美, 田村謙太郎, 西村いくこ, 嶋田知生
2. 発表標題 シロイヌナズナ本葉における恒常型ER bodyの食害抑止機能の解析
3. 学会等名 第60回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石原静圭, 坂下幸汰, 石田悠介, 木森義隆, 岩淵功誠, 西村いくこ
2. 発表標題 葉緑体核様体に見られる新奇光応答反応
3. 学会等名 第60回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中井由実, 堀口吾朗, 岩淵功誠, 原田明子, 中井正人, 西村いくこ, 矢野貴人
2. 発表標題 植物のtRNA-wobble位ウリジン修飾は葉細胞の発達に影響する
3. 学会等名 第60回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上田晴子, 西村いくこ
2. 発表標題 Organ bending and its restoration system for adjusting plant posture
3. 学会等名 第60回日本植物生理学会年会シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田徹、水穂そまれ、國枝正、高木純平、山田健志、西村いくこ、尾崎まみこ
2. 発表標題 昆虫の振る舞いを見越した植物の進化戦略：アブラナ科植物が獲得した匂いによる化学防除機構
3. 学会等名 日本動物学会近畿支部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島田貴士, 嶋田知生, 岡咲洋三, 斉藤和季, 中野明彦, 上田貴志, 高野義孝, 西村いくこ
2. 発表標題 ステロールエステル蓄積オルガネラ・SEボディによる植物ステロール恒常性維持機構の解明
3. 学会等名 日本生化学会大会シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takashi L. Shimada, Tomoo Shimada, Yozo Okazaki, Kazuki Saito, Akihiko Nakano, Takashi Ueda, Yoshitaka Takano, Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 Regulation of plant sterol homeostasis by HIGH STEROL ESTER1 and sterol ester bodies
3. 学会等名 第23回国際植物脂質シンポジウム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石原静圭, 坂下幸汰, 石田悠介, 木森義隆, 岩淵功誠, 西村いくこ
2. 発表標題 葉緑体核様体に見られる新奇光応答反応
3. 学会等名 植物細胞骨格研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 Plant defense strategies against pathogens and herbivore
3. 学会等名 Jagiellonian University Konan University Bilateral Meeting “Plant Organelle Dynamics” (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 尾崎まみこ, 前田徹, 水穂そまれ, 國枝正, 高木純平, 山田健志, 西村いくこ
2. 発表標題 植物が獲得した匂いによる化学防除機構の進化と昆虫の感覚・行動応答
3. 学会等名 日本味と匂学会第52回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 瀬上紹嗣, 木下悟, 島田貴士, 嶋田知生, 西村いくこ, 前島正義
2. 発表標題 Artifactual effects of protein tags for organelle morphology and growth
3. 学会等名 日本分子生物学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島田貴士, 嶋田知生, 岡咲洋三, 東泰弘, 斉藤和季, 桑田啓子, 小山香梨, 加藤美砂子, 高野義孝, 上田貴志, 中野明彦, 上田晴子, 西村いくこ
2. 発表標題 HiSE1はHMG-CoA reductaseを制御することで植物におけるステロール恒常性を維持する
3. 学会等名 第31回植物脂質シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西村いくこ, 上田晴子
2. 発表標題 植物のActin-myosin XI細胞骨格依存的なストレートニング機構
3. 学会等名 2017年度生命科学系学会合同年次大会 ConBio2017 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kentaro Tamura
2. 発表標題 The nuclear envelope as a signalling node in Arabidopsis.
3. 学会等名 Seminaire invite IJPB/SPS (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kentaro Tamura
2. 発表標題 The nuclear envelope as a signalling node in Arabidopsis.
3. 学会等名 IBMP SEMINAIRES (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西村いくこ
2. 発表標題 細胞からみる植物の生存戦略
3. 学会等名 千葉大学若手植物科学者の会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kenji Yamada
2. 発表標題 Plant endomembrane systems for the resistance against pathogens and pests.
3. 学会等名 International Student Conference of Cell Biology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 Plants use vacuoles for defense in multiple ways.
3. 学会等名 The 58th Annual Meeting of JSPP (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上田晴子, 西村いくこ
2. 発表標題 植物の器官屈曲を抑制する復元機構
3. 学会等名 第58回日本植物生理学会年会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kentaro Tamura
2. 発表標題 The unique mechanisms of nuclear dynamics in Arabidopsis.
3. 学会等名 SEMINAIRE MASTERII Recherche Genetique et Physiologie (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kentaro Tamura
2. 発表標題 Structural and functional insights of plant nuclear pore complex.
3. 学会等名 SEMINAIRE GDEC (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kentaro Tamura
2. 発表標題 Emerging roles for nuclear membrane in the regulation of signaling pathways in Arabidopsis.
3. 学会等名 International Symposium on Nuclear Dynamics in Plants (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tomoo Shimada
2. 発表標題 The Formation and Function of Stomata in Arabidopsis.
3. 学会等名 Kyoto-Swiss symposium 2016 Plants in Changing Environments: Systems in Action (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上田晴子, 森田美代, 西村いくこ
2. 発表標題 重力・光刺激に応答した植物の器官屈曲とストレートニング機構
3. 学会等名 日本宇宙生物科学会第30回大会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Haruko Ueda, Miyo Terao-Morita, Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 Functions of an actin-myosin XI cytoskeleton ~ from intracellular motility to plant organ movement ~.
3. 学会等名 Front Lines of Plant Cell Wall Research and Beyond (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 西村いくこ, 上田晴子
2. 発表標題 植物は器官の屈曲を感知してStraightening機構を発動する
3. 学会等名 日本植物学会第80回大会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菅野茂夫, 西浜竜一, 白川一, 松田頼子, 高木純平, 西村いくこ, 刑部敬史, 河内孝之
2. 発表標題 High throughput genome editing in a haploid dominant species, Marchantia polymorpha.
3. 学会等名 日本植物学会第80回大会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 Regulation of organ straitening by an actin-myosin XI cytoskeleton.
3. 学会等名 2016 Japan-Taiwan Bilateral Minisymposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 Organ straitening is regulated by an actin-myosin XI cytoskeleton to adjust plant posture.
3. 学会等名 The International Conference on Arabidopsis Research (ICAR) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kentaro Tamura
2. 発表標題 Emerging roles for nuclear membrane in signalling pathway in higher plants.
3. 学会等名 Society for Experimental Biology Annual Main Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kosei Iwabuchi, Haruna Ohnishi, Kentaro Tamura, Hirokazu Tsukaya, Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 ANGUSTIFOLIA mediates the dark-induced nuclear positioning in leaf cells of Arabidopsis thaliana.
3. 学会等名 Taiwan-Japan Plant Biology 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Junpei Takagi, Hideyuki Takahashi, Minoru Nagano, Masayuki Fujiwara, Yoichiro Fukao, Haruko Ueda, Kentaro Tamura, Akihiko Nakano, Tomoo Shimada, Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 The coiled-coil protein MAG3 is involved in protein transport at the endoplasmic reticulum-Golgi interface.
3. 学会等名 Taiwan-Japan Plant Biology 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kenji Yamada, Shino Goto-Yamada, Akiko Nakazaki, Atsushi J Nagano, Mikio Nishimura, Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 ER bodies provide a defense system using glucosinolates in Brassicaceae plants.
3. 学会等名 4th International Glucosinolate Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Junpei Takagi, Hideyuki Takahashi, Minoru Nagano, Masayuki Fujiwara, Yoichiro Fukao, Haruko Ueda, Kentaro Tamura, Akihiko Nakano, Tomoo Shimada, Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 The membrane protein MAG3 functions in protein transport between endoplasmic reticulum and Golgi apparatus.
3. 学会等名 20th European Network for Plant Endomembrane Research meeting (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kenji Yamada, Mikio Nishimura, Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 Endoplasmic reticulum (ER) bodies constitute a defense system in Brassicaceae.
3. 学会等名 6th EUROBIOTECH Congress (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Erin C Kawazu, Tsuyosi Fujimoto, Kentaro Tamura, Ikuko Hara-Nishimura, Yuichiro Watanabe, Takahiro Hamada
2. 発表標題 MOR1, a member of XMAP215/TOG family, modulates unique microtubule dynamics in Arabidopsis.
3. 学会等名 Cold Spring Harbor Asia 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chieko Goto, Kentaro Tamura, Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 KAKU4 is involved in controlling migration order of the vegetative nucleus and two sperm cells in pollen tubes
3. 学会等名 Bilateral Closure Symposium of GDR Integrative Plant Biology Network (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ikuko Hara-Nishimura, Tomoo Shimada, Haruko Ueda
2. 発表標題 An actin-myosin XI cytoskeleton regulates organ straightening to adjust plant posture
3. 学会等名 Plant Biology 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 高木純平, 高橋英之, 長野稔, 深尾陽一郎, 上田晴子, 田村謙太郎, 嶋田知生, 西村いくこ
2. 発表標題 MAG3は小胞体とゴルジ体の境界で効率的な物質輸送に寄与する
3. 学会等名 第59回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川一也, 田村謙太郎, 上田晴子, 伊藤容子, 中野明彦, 西村いくこ, 嶋田知生
2. 発表標題 細胞膜接着部位に着目した小胞体の4次元構造解析
3. 学会等名 第59回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩淵功誠, 大西春菜, 田村謙太郎, 深尾陽一朗, 塚谷裕一, 西村いくこ
2. 発表標題 ANGUSTIFOLIAはアクチン繊維の配向を制御することでシロイヌナズナ葉細胞のホメオスタティックな核定位に関わる
3. 学会等名 第59回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 八木宏樹, 田村謙太郎, 嶋田知生
2. 発表標題 GFP蛍光マーカーを用いたシロイヌナズナの排水組織の構造と発生機構の解明
3. 学会等名 第59回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中西将一, 島田貴士, 西村いくこ, 菅野茂夫
2. 発表標題 糖処理によるシロイヌナズナ葉におけるオイルボディ形成の誘導
3. 学会等名 第59回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中崎淳子, 山田健志, 國枝正, 田村謙太郎, 西村いくこ, 嶋田知生
2. 発表標題 シロイヌナズナ本葉における恒常型ER bodyの同定
3. 学会等名 第59回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井田千香子, 上田晴子, 嶋田知生, 田村謙太郎, 森田(寺尾)美代, 西村いくこ
2. 発表標題 ABCB19は植物器官のストレートニング機構に關与する
3. 学会等名 第59回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 水穂そまれ, 前田徹, 國枝正, 高木純平, 山田健志, 尾崎まみこ, 西村いくこ
2. 発表標題 昆虫の嗅覚を介した摂食行動から解明するER bodyの生理学的機能
3. 学会等名 第59回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 國枝正, 西村いくこ, 出村拓, George W. Haughn
2. 発表標題 シロイヌナズナ種皮ムシレージの多糖修飾に關与するE3ユビキチンリガーゼFLY2の機能解析
3. 学会等名 第59回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩淵功誠
2. 発表標題 ANGUSTIFOLIAはアクチン繊維の配向を介して細胞核の暗定位運動に関わる
3. 学会等名 第6回エンドメンブレンミーティング
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川一也
2. 発表標題 ER-PM接着部位の細胞内分布と構成因子の解析
3. 学会等名 第6回エンドメンブレンミーティング
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中崎淳子
2. 発表標題 シロイヌナズナ本葉におけるER bodyの同定とその形成機構の解明
3. 学会等名 第6回エンドメンブレンミーティング
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 八木宏樹
2. 発表標題 シロイヌナズナ排水組織の構造と発生機序の解明
3. 学会等名 第6回エンドメンブレンミーティング
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 水穂そまれ
2. 発表標題 虫害防御におけるER bodyの役割：昆虫の嗅覚応答を介した実験系の確立
3. 学会等名 第6回エンドメンブレンミーティング
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上田晴子
2. 発表標題 小胞体膜タンパク質の機能解析
3. 学会等名 第9回植物細胞研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Erin C Kawazu, Tsuyosi Fujimoto, Kentaro Tamura, Ikuko Hara-Nishimura, Yuichiro Watanabe, Takahiro Hamada
2. 発表標題 MOR1, a member of XMAP215/TOG family, modulates unique microtubule dynamics in Arabidopsis.
3. 学会等名 日本細胞生物学会 JSCB2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮内渉, 武井翔太, 森戸健, 宮城祐太, 岩淵功誠, 西浜竜一, 石崎公庸, 西村いくこ, 河内孝之, 近藤陽一
2. 発表標題 基部陸上植物ゼニゴケのUV-B受容体MpUVR8の機能解析
3. 学会等名 第58回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 國枝正, 嶋田知生, 西村いくこ
2. 発表標題 液胞選別輸送レセプター-VSR3およびVSR4は葉のセネセンスに関与する
3. 学会等名 第58回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阪井裕美子, 菅野茂夫, 中川強, 西村いくこ, 嶋田知生
2. 発表標題 pyridine-thiazole誘導体であるbubblinは気孔発生における細胞極性の形成を阻害する
3. 学会等名 第58回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岩淵功誠, 大西春菜, 田村謙太郎, 深尾陽一朗, 塚谷裕一, 西村いくこ
2. 発表標題 ANGUSTIFOLIAおよびACTIN7はシロイヌナズナ葉肉細胞の核の暗定位運動を制御する
3. 学会等名 第58回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田健志, 後藤志野, 中崎淳子, 永野惇, 西村幹夫, 西村いくこ
2. 発表標題 実生のERボディはアブラナ科植物の虫害防御に関与する
3. 学会等名 第58回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 濱田隆宏, 藤本剛史, 田村謙太郎, 西村いくこ, 渡邊雄一郎
2. 発表標題 シロイヌナズナ微小管付随タンパク質MOR1の局在解析
3. 学会等名 第58回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chieko Goto, Kentaro Tamura, Ikuko Hara-Nishimura
2. 発表標題 The Inner Nuclear Membrane Protein KAKU4 Is Involved in Controlling Migration Order of the Vegetative Nucleus and Sperm Cells in Growing Pollen Tubes.
3. 学会等名 第58回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上田晴子, 西村いくこ
2. 発表標題 アクチン・ミオシンXIはストレートニング機構を介して植物の姿勢を決定する
3. 学会等名 生体運動研究合同班会議
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 國枝正, 西村いくこ
2. 発表標題 AP-4複合体は植物細胞壁形成に関与する
3. 学会等名 第5回エンドメンブレンミーティング
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 岩淵功誠, 西村いくこ
2. 発表標題 細胞核の空間的配置からとらえる植物の紫外線環境適応能力
3. 学会等名 第5回エンドメンブレンミーティング
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 石川一也, 嶋田知生
2. 発表標題 ウイルス移行タンパク質は2種類の細胞膜上ドメインを利用して原形質連絡に局在する
3. 学会等名 第5回エンドメンブレンミーティング
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上田晴子
2. 発表標題 植物のストレートニング機構の解析
3. 学会等名 第8回植物細胞研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 瀬上紹嗣, 木下悟, 島田貴士, 嶋田知生, 西村いくこ, 前島正義
2. 発表標題 GFP等の融合タグによるオルガネラ形態と生長への人為的影響
3. 学会等名 第59回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takuya Hosokawa, Akira Yoshinari, Tadashi Kunieda, Tomoo Shimada, Ikuko Hara- Nishimura, Junpei Takano
2. 発表標題 The role of adaptor protein complex 4 (AP-4) in vacuolar targeting of a borate transporter AtBOR1
3. 学会等名 第59回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上田晴子
2. 発表標題 RHD3依存的な膜融合による小胞体ネットワーク形成
3. 学会等名 植物細胞骨格研究会2016
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 國枝正
2. 発表標題 細胞壁のクチクラ層形成への液胞選別輸送レセプターの関与
3. 学会等名 細胞壁研究者ネットワーク第10回定例研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 炭さくら, 國枝正, 河本恭子, 西村いくこ, 嶋田知生
2. 発表標題 AP-1複合体は種皮細胞におけるムシレージの輸送と蓄積に関わる
3. 学会等名 第57回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上田晴子、横田悦雄、桑田啓子、真野昌二、嶋田知生、田村謙太郎、深尾陽一朗、新免輝男、西村幹夫、西村いくこ
2. 発表標題 リン酸化を介した小胞体膜融合因子RHD3の活性調節
3. 学会等名 第57回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上田晴子、岡本圭史、嶋田知生、田村謙太郎、加藤荘英、田坂昌生、森田美代、西村いくこ
2. 発表標題 アクチン・ミオシンXI依存的なストレートニング機構の役割
3. 学会等名 第57回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中崎淳子、山田健志、河本恭子、上田晴子、西村いくこ、嶋田知生
2. 発表標題 An Analysis of Transport of Glucosinolates in Arabidopsis Leaves.
3. 学会等名 第57回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 武田 麻里、阪井 裕美子、今井 悠、西村 いくこ、嶋田 知生
2. 発表標題 薬の気孔の形成メカニズムとその機能解析
3. 学会等名 第57回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 前田和輝、國枝正、上田晴子、嶋田知生、西村いくこ
2. 発表標題 Abscission of the outermost cell layer of Arabidopsis root cap is controlled by modification of cell wall pectin.
3. 学会等名 第57回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 岩淵功誠, 小松愛乃, 酒井友希, 田村謙太郎, 高木慎吾, 河内孝之, 西村いくこ
2. 発表標題 苔類ゼニゴケにおける細胞核光定位運動
3. 学会等名 第57回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hara-Nishimura I., Yamada K., Shirakawa M., Nakano R., Ueda H., Shimada T.
2. 発表標題 Chemical defense systems in Brassicaceae plants.
3. 学会等名 第57回日本植物生理学会年会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 田村謙太郎, 西村いくこ
2. 発表標題 Nuclear movement and shape are controlled by nuclear membrane myosin XI-i.
3. 学会等名 第57回日本植物生理学会年会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 阪井裕美子, 菅野茂夫, 中川強, 西村いくこ, 嶋田知生
2. 発表標題 A Small Chemical Affecting the Asymmetric Cell Fate Determination in Stomatal Development.
3. 学会等名 第57回日本植物生理学会年会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shimada T.
2. 発表標題 Transport and accumulation of seed storage proteins in Arabidopsis.
3. 学会等名 Progress 100: Kyushu-U and Stanford-U Joint Research and Education Program Second Symposium 「Protein Trafficking and Intracellular Signaling of Plant and Fungal Cells」 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 西村いくこ
2. 発表標題 しなやかに生きる植物の不思議
3. 学会等名 日本動物学会近畿支部 (招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 田村謙太郎
2. 発表標題 The unique nucleocytoplasmic linkage in plants.
3. 学会等名 BMB2015 (日本分子生物学会生化学会合同年会) (招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Ueda H., Yokota E.
2. 発表標題 Active movements and network formation of the endoplasmic reticulum in plant cells
3. 学会等名 BMB2015 (日本分子生物学会生化学会合同年会) (招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Ueda H., Shimada T., Tamura K., Terao Morita M., Hara-Nishimura I.
2. 発表標題 An actin-myosin XI cytoskeleton determines plant posture by regulating organ straightening.
3. 学会等名 8th Plant Biomechanics International Conference (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 田村謙太郎
2. 発表標題 植物の核膜と細胞骨格をつなぐ因子
3. 学会等名 植物細胞骨格研究会2015
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 上田晴子
2. 発表標題 植物の形態におけるミオシンXIの役割
3. 学会等名 植物細胞骨格研究会2015
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Hara-Nishimura I.
2. 発表標題 An actin-myosin XI cytoskeleton regulates organ straightening to adjust plant posture
3. 学会等名 International Plant Molecular Biology Congress 2015 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 岩淵功誠, 日出間純, 田村謙太郎, 高木慎吾, 工藤洋, 西村いくこ
2. 発表標題 植物の細胞核の自然環境下における定位運動
3. 学会等名 第79回日本植物学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 田村謙太郎
2. 発表標題 Molecular relationships between the plant-specific nuclear envelope proteins.
3. 学会等名 International Plant Nucleus Consortium Meeting 2015 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計0件

〔出願〕 計1件

産業財産権の名称 A promoter activated by the NAI1 protein and the expression system containing it.	発明者 山田健志, 西村いくこ, 他3名	権利者 同左
産業財産権の種類、番号 特許、P.436296	出願年 2020年	国内・外国の別 外国

〔取得〕 計0件

〔その他〕

<p>報道関連</p> <ol style="list-style-type: none"> 2020年1月26日 日経新聞 ワサビのにおいで虫撃退：甲南大など アブラナ科植物で発見 2020年1月28日 朝日新聞デジタル キャベツなどの細胞内に謎の塊「ERボディ」役割解明 2020年2月2日 読売新聞 辛み 虫から根を守る 甲南大など わさびや大根 仕組み解明 2018年8月7日 日刊工業新聞 ベクチン合成仕組み解明 2018年8月15日 京都新聞 植物の陸上進出時、能力獲得か <p>受賞</p> <p>2017年7月10日 西村いくこ、アメリカ植物生理学会 名誉会員賞 (Corresponding Membership Award from American Society of Plant Biologists)</p> <p>甲南大学の研究力：環境刺激を感じながらしなやかに生きる植物に学ぶ http://www.konan-u.ac.jp/front/research/year/new/ 京都大学理学研究科植物学教室・年報 (2017 年度) http://www.bot.kyoto-u.ac.jp/annual/4_saibou.html</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	嶋田 知生 (Shimada Tomoo) (20281587)	京都大学・理学研究科・講師 (14301)	
研究分担者	田村 謙太郎 (Tamura Kentaro) (40378609)	静岡県立大学・食品栄養科学部・准教授 (23803)	
研究分担者	上田 晴子 (Ueda Haruko) (90402776)	甲南大学・理工学部・准教授 (34506)	
研究分担者	山田 健志 (Yamada Kenji) (00360339)	京都大学・理学研究科・特定研究員 (14301)	削除：平成28年1月12日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

ポーランド	Jagiellonian University			
France	Institut Jean-Piere Bourgin	Clermont University		
USA	University of Minnesota	Michigan State University	University of California,	他2機関
中国	Zhejiang A&F University	The Chinese University of Hong Kong	South China Normal University, Guangzhou	他1機関
カナダ	University of British Columbia			
ドイツ	Max Planck Institute	Leibniz Institute of Plant Biochemistry		